

広川町LPP

【3年】大和海、井上華、【2年】森心優、菅田愛理
【1年】有賀史洋、大石善太郎、三代類

概要

広川町は稲村の火といった防災の話が有名な地域であり、西広海岸というビーチでは夏に多くの家族連れが訪れている。広川町LPPは2024年度に発足し、小麦を栽培している農家さんと一緒に小麦粉を利用した特産物の作成を目的に活動を行ってきた。2025年度には、3回生2人、2回生2人、1回生3人の計7人で活動をしている。

宿泊研修



9月に広川町に現地調査に向かった。そこで町内の人とスコーンを試作し、町内の人々の意見を基にレシピの変更改善を行った。1回生にとっては初めての広川町であったため、観光名所の巡回や道の駅などでの食事で広川町について知ってもらうことができた。



試作

去年調べた先行研究をもとに、5～6月にかけて商品案を構想し、小麦を使った商品としてスコーンを製作することに決定した。また、スコーンを作る際のレシピなどをネットで見つけ7～9月にかけて学生同士でスコーンの試作を行った。スコーンに合う味や地元産の果物であるつゆあかねを使用したジャムと合わせるなど工夫を行い、ただ小麦を使った商品を作るのではなく、広川町の特産品を感じてもらえるような商品の試作を行った。



2025年度の振り返り

今年度は、昨年度の先行研究をもとに商品開発を行い、試作の段階に持っていくことができた。

試作した際に材料の配合を変えることで味や食感の印象を調整できることが分かり、目的に応じた材料配分の重要性や難しさを実感した。それぞれの味に合った配分を考えることで、宿泊研修でお会いした町内の方から好印象を得ることができた。

しかし、広川町のマルシェで実際に販売する機会がなく、幅広い世代からのリフレクションを得ることはできなかった。そのため、既存の店へのレシピ委託の検討や機会があればマルシェで実際に販売していきたいと考える。

今後は、特産品をアピールしつつ、地域内でのつながりを維持する取り組みをしていきたい。

